



映画監督  
今村 彩子 さん

「光が当たらないところにカメラを向きたい。」  
「悩み」や「揺れ」を大切に。

**町長**..2021年は映画『きこえなかつたあの日』が「文化庁映画賞 文化記録映画部門」優秀賞を受賞されましたね。おめでとうございます。

**今村**..ありがとうございます。受賞の連絡を受けた時、「まさか自分が」と驚くと共に、応援してくださった三芳町の皆さまをはじめ、多くの方の顔が浮かびました。

**町長**..活躍の裏には困難や苦勞もあると思いますが、どうやって乗り越えるのでしょうか。

**今村**..そもそも、根が明るいので「だいじょうぶ、何とかなる」と思って、そう言い聞かせますが、気持ちが減入っている時、つらい時は、日記に気持ちを吐き出したり、散歩などで体を動かして気持ちを切り替えたりします。体が疲れている時は、頑

文化庁映画賞の受賞

張るのをやめて、録画したドラマを見たり、チャ子(猫)と遊んだりしています。これは映画『Start Line』の哲さんの教えです。「カラダが疲れている時は休め、ココロが疲れている時は動け」という。自転車旅はもう7年前のことですが、今でも悩んだり停滞している時は、哲さんの教えを頭に思い浮かべます。

**町長**..あの旅が大きな糧になっているんですね。

**今村**..ひとりでは解決できない時は、信頼できる友人に相談に乗ってもらいます。そのため、映画が完成した時は、力を貸してもらった皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいになります。「みんなのおかげ」、「ありがとう」と。

2022年を迎えて

**町長**..2022年の抱負をお聞かせください。

**今村**..これまで様々な問題で生きづらさを抱えている人など光が当たらない所に、少しでもカメラを向けられたら、そんな想いで作品をつくってきました。でも、映画で社会は変えられません。変えられるのは「ひと」

喫してしまったので、10月の本大会は食事に困りました。結局、日本から炊飯器を持って行って、お米ばかり食べていました。お米のお陰でなんとか本番までの調整に集中できましたね。



東京藝術大学 音楽学部楽器科  
ピアノ専攻3年生  
岩井 亜咲 さん

「目の前のことを精一杯。」  
また、三芳町で演奏したい。

**町長**..三芳町にお住まいになった印象をお聞かせください。

**岩井**..都心に近いのに自然が多いですね。あとコピスみよしで色々な音楽に触れられて魅力的な町だと思います。

シヨパンコンクール

**町長**..岩井さんは昨年10月にシヨパン国際ピアノコンクール本大会に出場されましたが、コンクールを終えての感想はいかがでしょう。

**岩井**..1次予選の次のステージには進めませんでした。本番は演奏への不安や雑念はできるだけ取り払ってシヨパンだけに向き合う努力をしたので、自分の思うシヨパンを表現することができたと思っています。

**町長**..本番までは、どのようにコンディションを整えるのですか。



**岩井**..今回は入国から本番まで10日程あったので、調整がとて大変でした。心身ともに最高の状態で本番を迎えられるよう、自分を追い込みすぎないでペーシングを守って練習していました。

**町長**..ではシヨパンコンクールのエピソードをお聞かせください。

**岩井**..ピアノのブランド会社と交渉して練習の予定を立てるのですが、高層ビルの50階にある部屋を紹介された日がありました。ワルシャワを一望できるガラス張りのフロアにピアノがあり、その絶景に感激でした。

**町長**..最高のシチュエーションですね。現地では食事など苦勞されたのでは。

**岩井**..そうですね。7月の予備予選の際にポーランド料理を満

**町長**..2022年の夢と今年の抱負をお聞かせください。

**岩井**..具体的に将来の方向性は模索中ですが、コンクールで弾く曲のレパートリーを増やしたいですね。今は新しい曲目を練習したり、コンクールに挑戦したり、目の前のことを精一杯やり取りたいです。

**町長**..住民の皆さんへメッセージをお願いします。

**岩井**..9月にコピスみよしで演奏させていただいた時に、あたたかいメッセージをたくさんいただきました。この場を借りて感謝を申しあげたいです。本当にありがとうございました。機会があればまた三芳町で演奏したいと思っています。その際はぜひ聴いていただけると嬉しいです。

**町長**..毎年演奏をお願いしたいですね。演奏が聴ける機会を楽しみにしています。

2022年を迎えて



町内中学校で映画『Start Line』上映

三芳町では、誰もが幸福に生きていける共生社会の実現について考えるきっかけとするため、町内中学校で『Start Line』の上映を実施しています。

12/20(月)にいち早く藤久保中学校で行われた上映では、227人の生徒が鑑賞。「自分も今村監督のように勇気を出して困難に立ち向かわなければならぬと思いました。」という感想や共生社会について「その人、その人の個性、感じ方を考え共に支え合いコミュニケーションを取ることが大切なことだと思う。」といった声が聞かれました。



▲町内小学校での上映の様子。

